

株式会社コロワイド

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

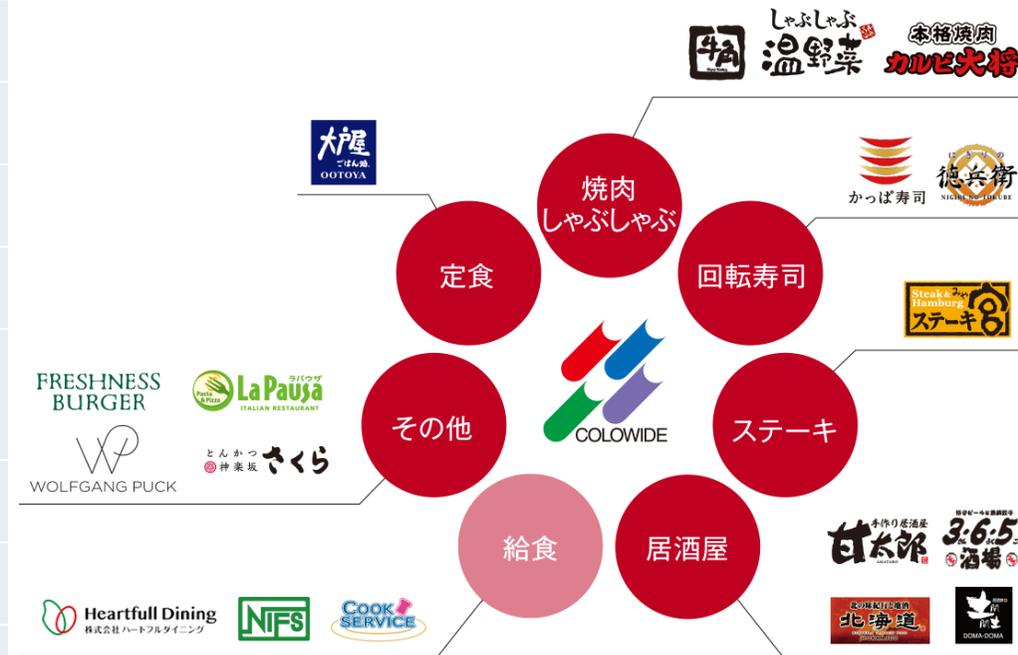
2026年2月27日

# 当社概要

- 株式会社コロワイドは神奈川県横浜市西区に本社を置き、国内外において外食事業、給食事業を展開しています
- 当社グループは「食」に関わるあらゆるフェーズで事業を展開する、「食」の総合プロデュース事業会社です

## 当社概要

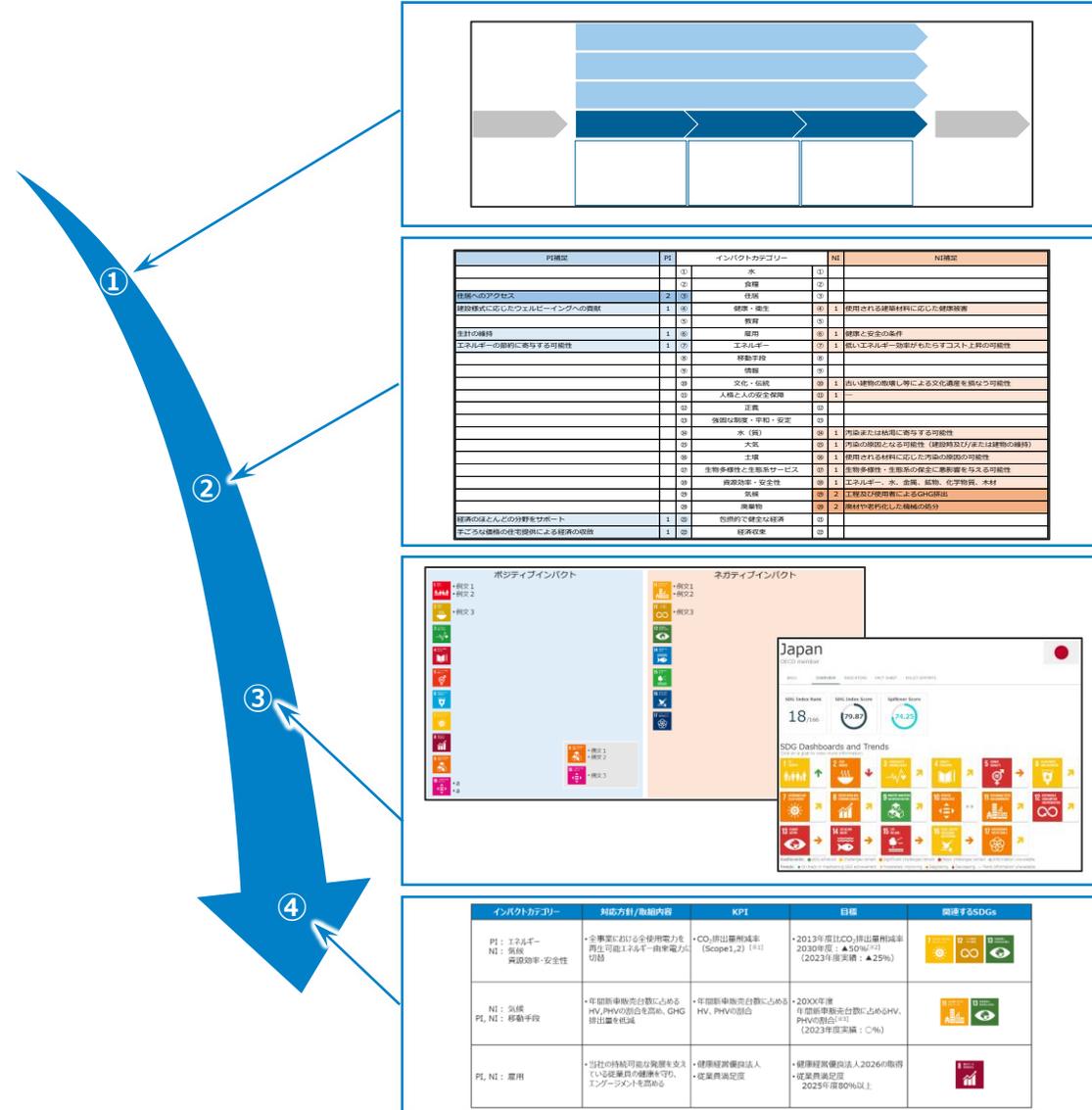
社名	株式会社コロワイド
所在地	神奈川県横浜市西区
設立	1963年4月
資本金	438億14百万円
事業内容	1.飲食店の経営 2.各種食料品の仕入販売及び加工販売 3.煙草、酒類の販売
売上収益	269,156百万円（2025年3月期 連結）
社員数	5,270名（2025年3月期 連結）
グループ	株式会社コロワイドMD 株式会社アトム 株式会社レイズインターナショナル 他



# インパクト分析フロー

- 下記のフローで当社グループのインパクト（環境・社会・経済に与える影響）を分析いたしました

工程	内容
① バリューチェーン分析	当該事業が経済的価値を創出するに至るプロセス（製品・サービスの構想、製造、提供、消費等）を特定します。
② インパクトマッピング	国際標準産業分類（ISIC）を用いて、業種別の一般的に想定されるポジティブ／ネガティブインパクトを確認します。
③ インパクトの特定	上記①②及びヒアリング結果等から当該事業のインパクトを特定の上、SDGs等社会的な要請との整合を確認します。
④ KPI・目標の設定	ポジティブインパクトが増大する、あるいはネガティブインパクトが抑制されるようなKPIと目標を設定します。



# バリューチェーン分析 (当社グループ事業：外食事業)

- 公表資料ならびに当社へのインタビューから、当社グループの事業分野のうち、外食事業をバリューチェーン\*分析の対象としました

\*当社グループの事業活動が付加価値を生み出す一連の流れ

## 当社グループ事業：外食事業

**経営戦略**：強い既存店づくり、成長投資、サステナビリティ、関連事業拡大、M&A等

**品質管理**：HACCP※の考え方を取り入れた衛生管理等

**人的資本**：働きやすく、働きがいのある職場環境の整備等

**商品開発・調達**

**食品製造**

**配送**

**調理・盛付・提供**

・メニュー、サービスの企画立案  
・原材料の調達

・セントラルキッチンでの調理、加工

・物流センターから店舗、施設への配送

・店舗にて最終的な調理・盛付・提供

※ HACCP (ハサップ) : "Hazard Analysis and Critical Control Point"の略称で、食中毒菌や異物混入などの危害要因を管理して食品安全を確保するために行う衛生管理手法。

# インパクトマッピング (当社グループ事業：外食事業 (食品製造業))

- ・ 特定した当社グループの事業分野について、国際標準産業分類 (ISIC) における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

## 当社グループ事業：外食事業 (食品製造業)

⇒ ISIC : 1075 調理食品製造業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー		NI	NI補足
		①	水	①	
食料へのアクセス	1	②	食糧	②	
		③	住居	③	
		④	健康・衛生	④	2 過剰摂取は不健康な食生活を助長する
		⑤	教育	⑤	
生計の維持	1	⑥	雇用	⑥	1 労働条件
		⑦	エネルギー	⑦	
		⑧	移動手段	⑧	
		⑨	情報	⑨	
文化遺産 (ガストロノミー) の保護に貢献する可能性	1	⑩	文化・伝統	⑩	
		⑪	人格と人の安全保障	⑪	
		⑫	正義	⑫	
		⑬	強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭	水 (質)	⑭	1 汚染の一因となる可能性
		⑮	大気	⑮	
		⑯	土壌	⑯	
		⑰	生物多様性と生態系サービス	⑰	
		⑱	資源効率・安全性	⑱	1 エネルギー、水
		⑲	気候	⑲	1 GHG排出
		⑳	廃棄物	㉑	2 工程および老朽化設備から出る廃棄物
健全な経済の一部である製造業	1	㉑	包摂的で健全な経済	㉑	
		㉒	経済収束	㉒	

(凡例) PI : ポジティブインパクト、NI : ネガティブインパクト、2 : 影響大、1 : 影響あり、空 : 影響なし

# インパクトマッピング (当社グループ事業：外食事業 (飲食業))

- ・ 特定した当社グループの事業分野について、国際標準産業分類 (ISIC) における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) のマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを特定しました

## 当社グループ事業：外食事業 (飲食業)

⇒ ISIC : 5610 レストラン及び移動式飲食業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー		NI	NI補足
		①	水	①	
食料へのアクセスの貢献	1	②	食糧	②	
		③	住居	③	
ウェルビーイング	1	④	健康・衛生	④	
		⑤	教育	⑤	
生計の維持	1	⑥	雇用	⑥	1 労働条件
		⑦	エネルギー	⑦	
		⑧	移動手段	⑧	
		⑨	情報	⑨	
文化遺産 (ガストロノミー) の維持に貢献	2	⑩	文化・伝統	⑩	
		⑪	人格と人の安全保障	⑪	
		⑫	正義	⑫	
		⑬	強固な制度・平和・安定	⑬	
		⑭	水 (質)	⑭	
		⑮	大気	⑮	
		⑯	土壌	⑯	
		⑰	生物多様性と生態系サービス	⑰	
		⑱	資源効率・安全性	⑱	
		⑲	気候	⑲	
		⑳	廃棄物	⑳	1 廃棄物処理
		㉑	包摂的で健全な経済	㉑	
		㉒	経済収束	㉒	

(凡例) PI : ポジティブインパクト、NI : ネガティブインパクト、2 : 影響大、1 : 影響あり、空 : 影響なし

# インパクトマッピング (一覧)

		当社グループ事業				
		外食事業 (食品製造業)		外食事業 (飲食業)		
		PI	NI	PI	NI	
社会 入手可能性、アクセス可能性、 手ごろさ、品質（一連の固有の 特徴がニーズを満たす程度）		インパクトカテゴリー		PI	NI	
		①	水			
	②	食糧	1		1	
	③	住居				
	④	健康・衛生		2	1	
	⑤	教育				
	⑥	雇用	1	1	1	
	⑦	エネルギー				
	⑧	移動手段				
	⑨	情報				
	⑩	文化・伝統	1		2	
	⑪	人格と人の安全保障				
	⑫	正義				
	⑬	強固な制度・平和・安定				
環境 質（物理的・化学的構成・性質） の有効利用		⑭	水（質）		1	
		⑮	大気			
		⑯	土壌			
		⑰	生物多様性と生態系サービス			
		⑱	資源効率・安全性		1	
		⑲	気候		1	
		⑳	廃棄物		2	1
		㉑	包摂的で健全な経済	1		
経済 人と社会のための経済的価値創造		㉒	経済収束			

(凡例) PI：ポジティブインパクト、NI：ネガティブインパクト、2：影響大、1：影響あり、空：影響なし

# SDGsとの関連性 (当社グループ事業：外食事業 (食品製造業))

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

## 当社グループ事業：外食事業 (食品製造業)

⇒ ISIC：1075 調理食品製造業

### ポジティブインパクト



- 食料へのアクセス



- 健全な経済の一部である製造業



- 生計の維持
- 健全な経済の一部である製造業



- 文化遺産 (ガストロノミー) の保護に貢献する可能性

### ネガティブインパクト



- 過剰摂取は不健康な食生活を助長する



- 汚染の一因となる可能性



- エネルギー, 水



- 労働条件



- エネルギー, 水
- 工程および老朽化設備から出る廃棄物



- GHG排出

# SDGsとの関連性 (当社グループ事業：外食事業 (飲食業))

- 環境省のインパクトファイナンスの基本的考え方を参考に、インパクトがあると判定されたカテゴリーについて、SDGsとの関連性を下図の通り整理しました

## 当社グループ事業：外食事業 (飲食業)

⇒ ISIC：5610 レストラン及び移動式飲食業

### ポジティブインパクト



・食料へのアクセスの貢献



・ウェルビーイング



・生計の維持



・文化遺産 (ガストロノミー) の維持に貢献

### ネガティブインパクト



・労働条件



・廃棄物処理

# KPI・目標の設定について

- 以上のような分析結果を基に、インパクトマッピングにより特定されたインパクトについて、当社グループが定めるマテリアリティならびにサステナビリティ基本方針等との整合性を踏まえ、KPI・目標を以下のように選択し、設定しました
- 目標に対する実績の進捗、新たな目標値の設定については年次モニタリングで確認します

インパクトカテゴリー	対応方針/取組内容	KPI	目標	関連するSDGs
NI: 資源効率・安全性 気候	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー利用の促進</li> <li>省エネルギーへの取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量削減率 (Scope1,2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年度までに2020年度対比原単位※▲50% (2024年度実績: ▲29.0%)</li> </ul>	  
PI, NI: 雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性活躍プロジェクト</li> <li>えるぼし認定取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性社員比率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年度までにグループ全体で30% (2024年度実績: 30.5%)</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年度までにグループ全体で30% (2024年度実績: 14.1%)</li> </ul>	

(凡例) PI: ポジティブインパクトの拡大、NI: ネガティブインパクトの抑制

※ 売上高百万円あたりの排出量



### ご留意いただきたい事項

- 本評価書の内容は、あおぞら銀行がその裁量により信頼できると判断した現時点で入手可能な公表資料や借入人へのヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価し作成されたものですが、あおぞら銀行は、当該情報の正確性、適時性、網羅性、完全性及び特定目的への適合性その他一切の事項について表明または保証するものではなく、当該情報を使用した結果について一切の責任を負いません。
- あおぞら銀行は、法律、会計、税務等の専門的資格を求められる内容に関しアドバイスを行う立場にありません。これらの専門的内容等につきましては、独立したそれぞれの専門家にご相談願います。
- 本評価書に係る一切の権利はあおぞら銀行が保有しています。本評価書の全部または一部をあおぞら銀行に無断で複製、翻案、改変等することは禁止されています。